

Primaff News

VOL.8 平成20年3月29日発行



農業による環境問題への影響と評価

老農 石川理紀之助に関する資料を閲覧できます。



農業による環境問題への影響と評価

ーシンポジウム「農業環境政策の展望と課題」での発表からー

当研究所では、平成20年2月21日に総務省ビルの講堂において、米国農務省経済研究所(ERS)キティ・スミス所長らをメインゲストに招き、農業環境政策の展望と課題についてのシンポジウムを開催しました。

農業と環境の調和を目標とする政策は、1980年代後半より主要先進国を中心として導入され、近年、温室効果ガスの排出抑制、バイオ燃料の促進等による地球温暖化対策への貢献という新たな政策課題も出現しています。

シンポジウムでは、米国、欧州、わが国において従来から取り組まれてきた農業環境政策について、政策的意義や手段、影響・効果等を探るとともに、今後の展開や新たな課題に対する取組に関して専門家より講演していただきました。

シンポジウムの全体概要については、別途、農林水産政策研究所レビューNo.28に掲載する予定ですが、ここでは、その中で発表された当研究所の林研究員の「農業による環境問題への影響と評価」の概要をご紹介します。

近年は、環境問題の中でも特に地球温暖化への対策が強く求められており、農業でも積極的に取り組む必要があります。ここでは、バイオエタノール生産を事例として取り上げ、農業が温室効果ガスの削減にどの程度貢献できるかを評価します。

①農業とバイオエタノール生産

農業はバイオエタノールの生産に対し原料作物を供給することで、農業所得の増加などの恩恵を受けることが予想されています。しかし、単にバイオエタノール生産からの利益を期待するだけではなく、逆に農業がバイオエタノール生産へ利益を与えることも重要です。その一つとして、ここではバイオエタノール生産での温室効果ガス削減に対する農業の貢献を取り上げます。具体的には、簡易耕起栽培といった農業での原料作物栽培方法の変更や酪農業で発生する家畜ふん尿を原料作物栽培やバイオエタノール生産に活用すると、温室効果ガスはどのくらい削減できるかについて、北海道十勝地方で計画されているバイオエタノール生産を事例に評価します。



ー シンポジウム会場の様子 ー



ー 発表している林研究員 ー

② ガソリンに比べ最大23%の温室効果ガスを削減

計算の結果、十勝地方の事例の場合、酪農業で発生する家畜ふん尿を有効活用するとバイオエタノールの生産に伴う温室効果ガス排出を通常の生産方式より最大で10%、ガソリンの生産と比べると最大で23%削減できるという結果になりました(図1)。この結果は、農業が地球温暖化防止に少なからず貢献できることを示すとともに、これまで廃棄物として扱われていた家畜ふん尿が実は有効な資源であることを改めて示すものとも言えます。

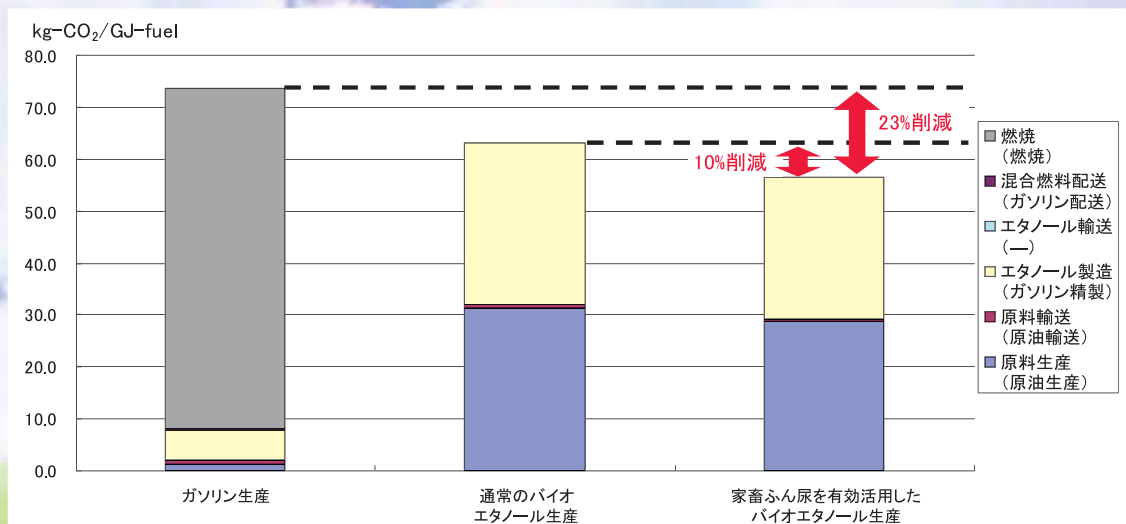


図1 バイオエタノール生産での温室効果ガス排出量

③ 農業でも積極的な地球温暖化対策の取組を

農業はこれまで製造業などと比べ、地球温暖化防止への取組が必ずしも十分とは言えない状況にありました。しかし、温室効果ガスの排出削減目標の達成のために他の産業が努力している中、農業でもより積極的な取組が求められることは間違いありません。今後も農業自身の地球温暖化防止への貢献を積極的にアピールし、自ら進んで地球温暖化対策に取り組む必要があるでしょう。

林 岳(はやしたかし)

【研究分野】

環境会計、ライフサイクルアセスメント、産業連関分析などを用いた農業と環境の影響評価

【執筆論文】

「農業におけるミクロ環境会計の適用」(出村克彦、山本康貴、吉田健太郎編著『農業環境の経済評価』北海道大学出版会、2008年 所収)

「マクロ環境会計と農林業の環境評価」『システム農学』第23号第1巻、2007年

「地域における第一次産業の持続可能な発展に関する分析—北海道地方を事例として環境・経済統合勘定の構築と推計—」『農林水産政策研究』第6号、2004年 他

老農 石川理紀之助に関する資料を閲覧できます。

— 農林水産政策研究所図書館の蔵書紹介 —

みなさんは石川理紀之助という方をご存じですか？

今国会の総理施政方針演説の中で、「井戸を掘るなら水がわくまで掘れ」の言葉が引用され、改めて国民から注目を集めた人物でもあります。

石川理紀之助は明治時代の農村指導者で、生涯を貧農救済に捧げた人物です。「老農」あるいは「農聖」と敬称され、秋田県農業を支える大きな原動力となった代表的な人物と言われています。

石川理紀之助の功績は、農事改良を単なる個人の営みとしてではなく、農民を広く組織した集団的研究に高めたことです。明治11年に新しい農業技術の普及を進めるための「種子交換会」を開催し、その推進役を担いました。これが全国でも最大の「種苗交換会」に発展しています。

当研究所の図書館では、大正から昭和の初期の石川理紀之助の業績を取りまとめた資料を多数所蔵しています。外部の方も閲覧することができますので、興味のある方は、ぜひ、ご来館ください。



— 石川理紀之助に関する書物 —

編集後記

今月号の表紙は、当研究所の研究員が撮影した裏庭に咲いていた繭梅（ロウバイ）です。

花の名前は、中国から来たことから中国名の繭梅となったという説と、花被片が繭細工のようであったからという説があるようです。

花の少ない季節によい香りをさせて、一足早い春を告げているようでした。

Primaff News

— 農林水産政策研究所だより —

VOL. 8 平成20年3月29日発行

農林水産省農林水産政策研究所

企画広報室広報資料課

TEL : 03-3910-3809

※バックナンバーはHPをご覧ください。

<http://www.primaff.affrc.go.jp/seika/primaffnews/news.html>

